

佛教大学校舎誘致予定地



活緑クラブ 矢野 康弘 議員

佛教大学校舎誘致の促進を

地域連携協定を生かして **市長**

問 昭和57年に佛教大学誘致が決定し、大いに期待した。平成7年によく造成工事が行われ20ヘクタールを5ゾーンに分けて造成された。その後、スポーツゾーンなどが整備され、平成11年3月にナイター設備付の野球場や陸上競技場兼サッカー場が整備され、クラブハウスなども整備された。現在、野球部が中心に使用されており大学のバスで送迎されている。中心となる教

育研究ゾーン、管理・厚生ゾーンには今だに建築されていない。このまま放置すると元の山に戻る。大きな期待をしただけに残念である。ぜひ、一学部でも早急に誘致していただきたい。誘致できないときは何らかの方策を考えてほしい。

市長 平成24年に開学百周年を迎えるので、来年度から計画策定を行っていく。園部キャンパスについての有効利用を考え

る。美山町で佛教大学と地域連携協定を調印した。これを南丹市が引き継ぎ昨年の秋に、私も出席して連携協定に調印した。このご縁もあり園部キャンパスもお願ひしたい。

支所の窓口業務（八木支所）



南風会 中川 幸朗 議員

本庁と支所の権限を明確化し迅速に対応できる体制づくりは

行財政プランの具現化で見直す **市長**

問 今後、本庁と支所の機能をどう考え、権限を区分し、現場で迅速な対応をしていくための一定の権限と財源を支所に与えて現場で問題を解決できるようにしていくべきと考えるが、また、現状の正規の職員と臨時の職員の数はどうなっているのか伺う。

市長 本庁・支所の業務内容また、役割を早期に構築しなければならぬ。行財政プランの具現化と連動させ見直す。今後、権限・財源についても見直しの中で具現化していく。職員数は正規職員468名、嘱託職員118名、臨時職員144名である。類似団体と比べてどうか、また、交付税措置に係る10年後の課題について、行財政プランの具現化を推進し行政効率化も図り、今後負担を残さない措置も考える。

問 バス交通について、バス交通整備計画検討委員会の進捗状況を伺う。

市長 福祉面と採算性も含め、十分な検討をしながら、市民に愛されるバスが運行できるよう進めていきたい。今後、3月にバス交通整備計画検討委員会を開催いただき、園部駅西口から南丹病院へ行く部分についても、検討をいただく。

地域との連携が重要な中学校（園部中学校）



丹政クラブ 橋本 尊文 議員

学校・家庭・地域社会の連携を

地域の特性を生かし連携を深める **市長**

問 いじめは人間性の否定につながる問題である。学校、家庭、児童間の確執など様々な要因が複合的に重なった結果であり、一朝一夕の解決は難しい。南丹市では小康状態を保つと聞けが、現在の対応と将来の対策について伺う。

教育長 児童状況の把握、学校組織体として生徒の問題に取り組む体制、スクールカウンセラーによる相談活動を通じて適切な指導に努力している。

市長 学校、家庭、地域社会の連携は教育基本法の理念であり、地域力は教育問題において重要である。それぞれの地域の特性を生かしつつ、教育委員会との連携を深め対応していきたい。

教育長 教育における連携の重要性は認識している。それぞれの主体性を尊重し、研修と学習機会を提供する中、主体的行動を支援する。団塊の世代との連携は、

八木駅～神吉を走る路線バス



日本共産党・住民協働市議員団 仲 絹枝 議員

バス交通の具体的計画と実施に向けた日程は

山陰本線複線化の時期を目安に **市長**

問 市のホームページに南丹市政へのご意見箱がある。どんな意見が寄せられているのかを伺う。また、亀岡市のように、住民と行政がキャッチボールできるような意見箱にすることが必要と考える。さらに、ホームページの充実も求められているが、市長の見解を伺う。

市長 58人から69件、施策、子育て、福祉、職員などに関して様々な意見が寄せられているが、公表はできない。今後、ホームページ、広報、情報公開の充実を図っていききたい。

問 八木町のバス問題については、毎議会で質問してきた。市が行ったアンケートの中に、高齢化社会に対応するためにも、環境問題の観点からも、公共交通への要望が多い。10代の回答者からは「通学に利用しやすい本数を考えて欲しい」と高年齢者からは「行きたいところに、

自由に行けるような交通手段として、一日も早くバスを走らせて欲しい」と声が出ている。また、八木町の各区長からは要望書が提出され、八木町選出の議員が同席し市長に陳情もした。八木町にはいつバスが走るのか、南丹市全域のバス交通のあり方、考え方、具体的な計画と実施に向けての日程を伺う。